



せせらぎ

第12号

R3.3.5

校訓

心ゆたかに 健やかに

校長 長谷川 晃三郎

卒業式まであと2週間弱と迫ってきました。6年生がそれぞれの日数を分担してつくった「卒業までの日めくりカレンダー」は「10」（土日除く）を示しています。カレンダーを眺めながら、6年生のがんばりとすばらしいリーダーシップの数々を思い出している今日この頃です。

本当にすばらしい6年生です。今年度の6年生がこの子どもたちで良かったとつくづく思います。何より返事や挨拶など気持ちの良い言動を全校に広げてくれました。「相手を思いやる心」や「感謝する心」をもち、努力を惜しまない姿勢を身につけている子どもたちです。人として最も大切なことを身につけている6年生だからこそ、様々な場面で全校を見事にリードし、この伊万里小学校を一層高めることができたのだと感謝しています。

今は下級生のクラスを訪問して、一緒に遊んだり給食を食べたりすることはできませんが、それに変わるものとして廊下のマーカの塗り直しや清掃活動、プレゼント作りなどの「立つ鳥運動」を行っています。目立つことばかりではありませんが、誰が見ていようといまいと誠実に学校のために努力をすることができるのが今の6年生です。小学校卒業というゴールを目指し、懸命にラストスパートをかけている6年生の姿は輝いて見えます。

ありがとう集会

2月25日（木）の3・4校時に「ありがとう集会」がありました。計画や運営は、運営・集会委員会と歌声委員会の子どもたちが中心になって行いました。

例年体育館で各学年から感謝の気持ちを伝える発表を行うのですが、今年は1～5年生の発表動画を学級で見た後、運動場に集まって6年生の発表を見るという形で行いました。

1～5年生は感謝の言葉や歌、ダンス、リコーダー演奏など、どの学年も工夫を凝らし「ありがとう」という気持ちを精一杯伝えました。6年生の発表は、在校生への応援メッセージやダンス、鼓笛の発表、5年生への無言掃除セットの進呈と内容もたいへん豊富で見事でした。練習や準備などに一丸となって取り組み、精一杯発表している姿に目頭が熱くなりました。何事にも誠実に努力を重ねることができるすばらしい6年生です。

6年生には残されたわずかな日々を仲間と共に精一杯活動し、たくさんの思い出をつくってほしいことを話しました。在校生には気持ちの良い言動で伊万里小学校をリードしてくれた6年生を、誰が見ていようといまいと精一杯努力をすることのできる6年生の姿を最後までしっかりと見て、心に焼き付け、今後の手本にして欲しいことを伝え、会を閉じました。

保護者の皆様にも見ていただきたかったのですが、それができずに残念でなりません。特に6年生の保護者の皆様には申し訳なく思っています。いつも学校のために多方面より支援していただいていることに感謝しています。





全校朝会（3月）での話



3月3日今年度最後の全校朝会でした。今年度は最後まで体育館で行うことはできませんでした。

みなさんは、『世界で一番美しい言葉』は何だと思えますか。いろいろあると思えますが、校長先生は、「ありがとう」という言葉だと思っています。

みなさんの中には、先生が「上手にかけてるね。」などと声をかけるだけで、「有り難うございます」と言ってくれる人がたくさんいます。とても、うれしい気持ちになりますし、さすが伊万里小学校の子どもたちだなあと感心します。

人は一人では生きていくことはできません。身の回りのたくさんの人に支えられています。身の回りにどんな人たちがいますか。目を閉じて考えてみてください。

(～中略～)

皆さんの回りの人たちは、家族や学校の人たちだけでしょうか。そうではありません。地域に生活する人たちがいます。地域の皆さんは、家の人のように細かくいろいろなことは言われなくても知れません。家の人や学校の先生のように、叱ることもないかも知れません。しかし、皆さんのことをいつもしっかりと見てくださっているのです。

「ありがとう」という言葉は漢字で書くと、こう書きます。「有る」ことが「難しい」と書きます。滅多にないことです。珍しくて貴重なことです。という意味です。

「朝、起こしてもらった時」、「ご飯をつくってもらった時」、「誉めてもらった時」、「叱ってもらった時」「地域の人から声をかけてもらったとき」…。どうですか。

みなさんにとって、自分の親が子供を起すのは当たり前。ご飯を用意するのも当たり前。いいことをしたり、頑張ったら、誉めてもらうのが当たり前、地域の人が子どもたちの登校や下校を見守ってくれるのは当たり前、と思っている人が多いのではありませんか。叱られて、「有り難う」なんて言う訳がないと思う人も多いでしょう。

でも、みなさんが当たり前だと考えている「朝、起す」「ご飯を用意する」「誉める」「朝の登校を見る」などをしてもらえなかったら、どうでしょう。あるいは、悪いことをしたり怠けている時に叱ってもらえなかったら、みなさんはどうなっていくのでしょうか。

(～中略～)

みなさんにとって当たり前を感じていることでも、実は、「有ることが難しく」「大変貴重なこと」が多いのです。

返事や挨拶もそうですが、「有り難う」と言われると、とても気持ちが良くなります。「有り難う」という言葉は相手を気持ちよくする魔法の言葉です。この有り難うをたくさん使える人は、当たり前のことを当たり前と思わず「感謝する心」「相手を大切に作る心」をもったとてもすばらしい人です。

よく地域の人からこんな話を聞きます。『朝見守りをしているときなど今年は挨拶をしてくれる子どもたちが増えた。』『公民館で会ったときに「こんにちは」と言ってくれて、とても気持ちよかった。』『町で会った時に「こんにちは」の声を聞くことが多くなった。昨年までも「おはようございます」はあったが、「こんにちは」はあまり聞かなかった。』『朝立っていると「おはようございます」の大きな声の後に、「寒くないですかと子どもたちの方から声をかけてもらった。その日は一日とても気持ちよかった。』などといった内容です。さすが伊小っ子です。

でも、あなたたちならもっとできると思います。もっと「有り難う」の言葉をたくさん使ったり、たくさんの人に挨拶をすることができると思っています。特に家族や地域の方に「有り難うございます」という感謝の言葉や挨拶をもっとたくさん言えるようになってほしいと思っています。周りの人を大切にできるあなたたちなら必ずできます。

「有り難うという言葉がたくさん使う」「地域の人や家族の人へも感謝の気持ちをもって挨拶などをさらにならば」この2つのことをしっかりと胸に、残りの16日をさらに充実した毎日にしていってください。

